

AIが変える知的財産の未来：NECの「知財DX」が実現する守りから攻めへの転換

NECが2026年から開始する「知財DX事業」。AIで業務効率を劇的に高め、戦略的な知財活用へ。

守り (Defense)：知財業務の効率化

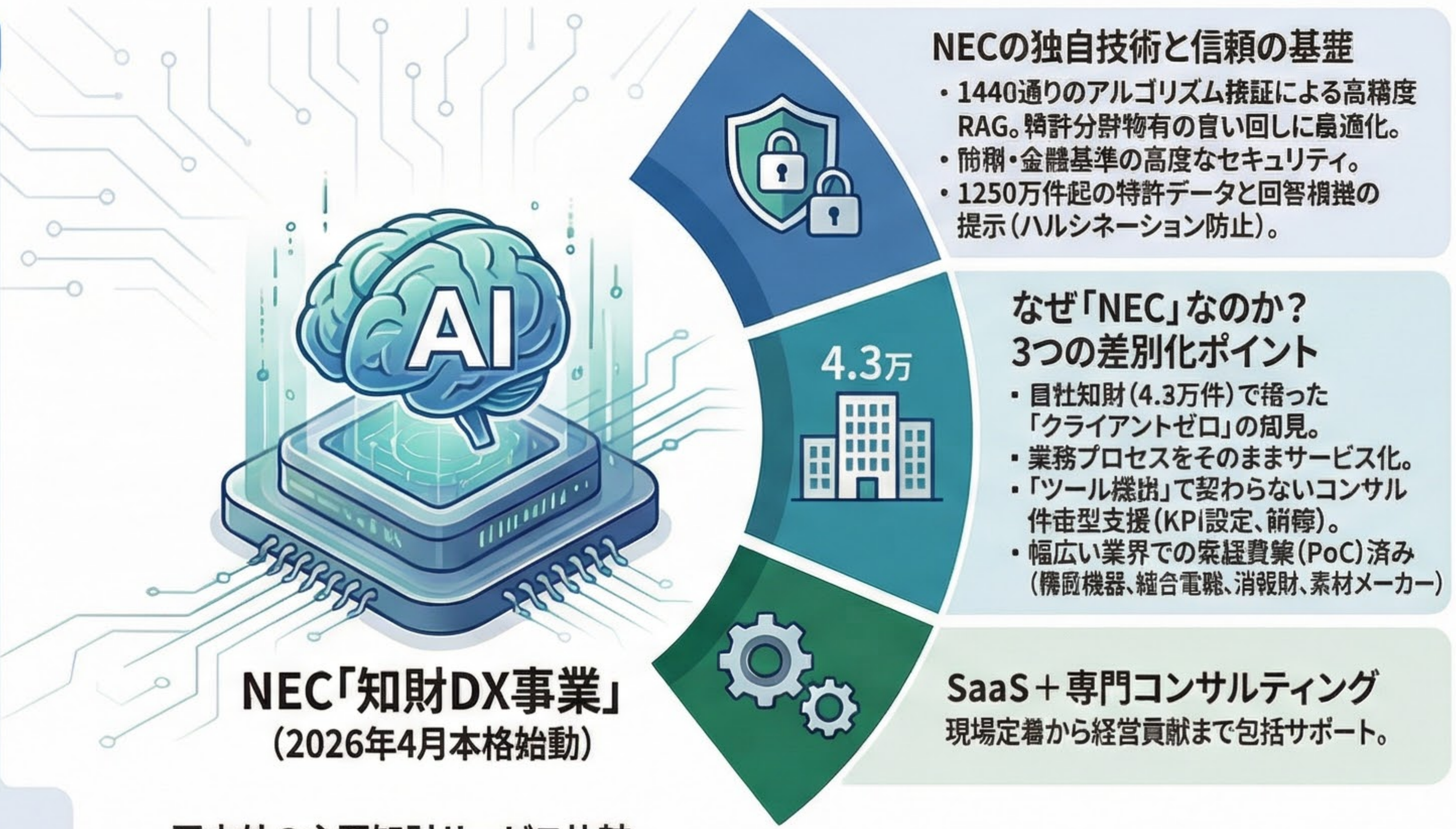


発明創発・権利化のスピードアップ
独自AIが類似特許提供、特許性判定、審査官への参照作成支援、明確書ドラフト作成を自動化・標準化。



先行技術調査：
約22時間 → 最短で約3時間

発明創発・権利化のスピードアップ：
独自AIが類似特許提供、特許性判定、審査官への参照作成支援、明確書ドラフト作成を自動化・標準化。



NEC「知財DX事業」
(2026年4月本格始動)

NECの独自技術と信頼の基盤

- ・1440通りのアルゴリズム検証による高精度RAG。特許分野特有の言い回しに最適化。
- ・簡略・金銭基準の高度なセキュリティ。
- ・1250万件起の特許データと回答機種の提示（ハルシネーション防止）。

なぜ「NEC」なのか？ 3つの差別化ポイント

- ・自社知財（4.3万件）で培った「クライアントゼロ」の知見。
- ・業務プロセスをそのままサービス化。
- ・「ツール機出」で契約しないコンサル件単位支援（KPI設定、簡略）。
- ・幅広い業界での案経費集（PoC）済み（機密機器、縫合電機、消費財、素材メーカー）

4.3万

SaaS + 専門コンサルティング
現場定着から経営貢献まで包括サポート。

攻め (Offense)：知財業務の高度化



戦略立案と資産管理の強化

- ・AIによるポートフォリオ適正管理、技術・知財戦略立案。
- ・知財を経営の中核を越える「資産」へ。
- ・IPランドスケープへの転換支援。

国内外の主要知財サービス比較

企業・サービス	主な特長・強み	弱み・課題
✓ NEC (知財DX事業)	【特長性】 空型業務の自給化(SaaS)+聴取立案(コンサル)のハイブリッド、国内展開に強い。	株視事業のため、中国・韓国データへの対応や導入実績数がこれからの課題。
富士通 (知財分析)	【SI力】 既存システム連携やカスタム機出に強み。ICT企業としての場合提案。	パッケージとしてのプロダクトが不明確。個例の発現もり・構築が必要。
日立 (Sharesearch等)	【老練の債績】 検索・管理・分析を統合。トヨタ等大手での実績、90か国展開。	出願機出作機などの「実機自動化」機能は含まれていない。
パナソニック (PatentSQUARE)	【機出性】 現職校報者でも使える直感のない、日本特有の実機に最適化。	コンサルティング支援はなく、ツールの使いこなしはユーザー次第。
IBM (Watson活用)	【技術力】 高度なNLPによる未来予製や取引プラットフォーム。	導入ハードルとコストが高く、特許特化のチューニングに手機がかかる。
Clarivate (PatentSight等)	【世界標準】 圧倒的なデータ債員と科学的指標。グローバルな投資判断に利用。	コストが非常に高い。日本特有のニュアンス対応にギャップがある場合も。

NECの「知財DX」は、専門人材不足や膨大な業務負担を解消し、企業を知財戦略の最前線へと導きます。